

平成28年度事業報告書



公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	平成28年度事業概観等	2
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	5
4	みなとの賑わい創出事業	7
5	緑地管理及び研修施設事業	8
6	集客増に向けた重点取組	10
7	組織運営の質的向上に向けた取組	12
8	事業一覧表	14

1 平成28年度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,100 m²
 - (オ) その他
タワー4棟

(2) 施設管理者

- ア 共同事業体
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
- イ 代表団体
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
- ウ 代表者
会長 金近 忠彦
- エ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- オ 設立
昭和59年10月1日
- カ 指定管理者期間
平成28年4月1日～平成33年3月31日（第3期）

(3) 事業概観

平成28年度は第3期指定管理期間の初年度であり、当財団にとって極めて重要な年度であるため、利用者の拡大と一層のサービスの向上を目指し、職員一丸となって新たな魅力づくりとみなとの賑わい創出に向け、多様な事業に取り組みました。

その結果、横浜市との協約における28年度主要目標を全て達成するとと

もに、経営の効率化や効果的な執行を図りました。

特に帆船日本丸については、希少な「リベット構造」を持ち、現存する貴重な海事遺産であることから、その文化的価値の高さを10月のシンポジウム・講演会などで広く発信しました。

また、一昨年逝去し、平成28年度に御遺族より横浜市が寄贈を受けた横浜ゆかりの画家、柳原良平氏の多彩な作品を広く紹介した企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」を8月から11月にかけて開催し、好評を博しました。

帆船日本丸・横浜みなと博物館については、ニーズの高かった単館券を発行したことなどにより、観覧料収入は対前年比6.2%減の29百万円となりましたが、有料入場者数は、単館券導入の効果もあり対前年比6.1%増の91,963人となり、横浜市との協約目標である8万人を達成することができました。日本丸メモリアルパークの利用者数につきましても、対前年比11.6%増の154万人と横浜市との協約目標である134万人を達成し、多くの市民、来訪者にメモリアルパークを楽しんでいただきました。

平成28年度目標項目	実績	目標	対前年比
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	91,963人	80,000人	6.1%増
日本丸メモリアルパーク利用者数	1,539,965人	1,340,000人	11.6%増
小・中・高等学校の来校数	658校	595校	8.1%減
お客様満足度	99.6%	97%以上	0.6ポイント増
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	推進	—

参考

指定管理期間の目標（平成32年度）		
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	目標	8万7千人
日本丸メモリアルパーク利用者数	目標	150万人
小・中・高等学校の来校数	目標	650校
お客様満足度	目標	97%以上
指定管理料の削減	目標	税抜き5%削減

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢87歳となり、船体の強度を保つため、年次検査に合わせて的確に帆走艀装、木甲板、外板等の船体整備を実施しました。

船体整備を進めて安全確保を行いながら、帆船日本丸を活用した市民参加・体験型の事業展開を図るとともに市民の皆様に日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めました。

なお、帆船日本丸は、3月10日に国の文化審議会から国指定重要文化財の答申を受けました。

(1) 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行うとともに、歴史遺産としての価値の発信に努めました。

ア 日常保守点検

- (ア) 観覧者通路・公開区域の安全点検整備
- (イ) 船内及び甲板清掃、船内真鍮磨き
- (ウ) マスト、ヤードその他帆装の点検整備等

イ 年次船体整備

- (ア) 中間検査受検工事
- (イ) 静索の塗装
- (ウ) ロイヤルヤード整備等

ウ 災害防止

- (ア) 観覧者、総帆展帆協力者及び甲板整備協力者の安全の確保
- (イ) 船内防災センターにおいて火災、浸水及び不法侵入者等に備えて24時間体制で集中監視を実施

エ 帆船日本丸の歴史的文化的価値の発信

- (ア) 日本船舶海洋工学会春季講演会発表（5月27日）
- (イ) 帆船日本丸保存シンポジウムの開催（10月1日）
- (ウ) 文化庁文化審議会の国指定重要文化財答申（3月10日）
- (エ) 答申後の広報用横断幕掲揚
- (オ) 答申を受け、広報のため、無料公開を実施（3月20日）



良好な保存を目指し万全な整備



ステージに横断幕を設置

(2) 公開事業

日本丸船内を年間288日一般公開しました。公開日には、お客様に大変ご好評頂いている現役時代の日本丸に乗船経験のあるガイドボランティアによる船内ガイドを行いました。また、お客様のご意見を反映させることによりサービスの向上に努めました。



夏休み「日本丸でロープをつくろう！」イベント

講座の開催、通常立ち入ることができない未公開ゾーンの船内探検ツアーや冬期修繕工事

展帆ボランティアの協力による総帆展帆や、満船飾を行うことで帆船日本丸の美しい姿を来場者に実感していただきました。また、夏は小学生向けの自由研究教室を行いました。新たな事業として、船長によるスペシャル



未公開ゾーンの見学会

期間中の見学会の開催等に取り組み、帆船日本丸の魅力を多くの皆様に伝え、観覧者の誘致に努めました。

さらに、新たな取組として、フェイスブックを活用した広報活動に取り組み、帆船日本丸の魅力だけでなく、工事の様子や普段見ることのできない箇所を多くの皆様に周知し、市民の皆様の100年保存に対する理解を得られるように努めました。



工事中のフェイスブック写真

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸は、青少年が船上訓練などを行うことにより海・船・港に関する知識を学ぶ教育施設です。帆船日本丸及び訓練センターを活用して、青少年錬成のための海洋教室を開催し、海事思想の普及を図りました。宿泊コースでは、実施学校と事前に訓練プログラムを調整し、希望に沿ったプログラムで実施しました。



カッター訓練



展帆訓練



結索訓練



バウスプリット渡り



甲板みがき

3 横浜みなと博物館事業

平成28年度は、市民ボランティアとともに、展示案内や教育普及活動、小学校への出前講座などを実施しました。こどもから大人、ファミリーまでが、船や港、海に親しみ、関心を深めていただけるように、体験的なプログラムを、年間を通して行いました。

特別展示事業では、夏から秋にかけて画家、イラストレーターとして著名な柳原良平（1931～2015）の画業を通観する企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」を開催しました。本展は、柳原夫人・薫氏より横浜市に寄贈された作品の中から約150点を展示し、没後最初の本格的な展覧会となりました。その明るく楽しい画風の油彩画、切絵、リトグラフなど多彩な作品を全国から来られた多くの入館者の方々に堪能していただきました。関連行事では、柳原の多彩な活動を関係者が語る記念座談会「柳原良平の海と船と港の絵を語ろう」を開催、また子どもたちが柳原の絵を使ってオリジナルの絵本を製作するワークショップ「海・船・港の絵本をつくろう」を実施しました。

冬には江戸時代から現代まで海難事故とその救助、防止の歴史を紹介する

企画展「海難と救助—信仰から SOS へ—」を開催しました。関連行事として、実際の海難救助の実態について語る「海上保安庁元特殊救難隊長によるスペシャルトーク」と、基地施設と実際の特殊救難隊の訓練風景を見学する「親子の横浜海上防災基地見学会」を実施しました。



＜柳原良平展＞
記念座談会



＜柳原良平展＞
海・船・港の絵本をつくろう



＜海難と救助展＞
親子の横浜防災基地見学会

(1) 常設展示事業

入館者に常設展示をよりよく知り、楽しんでいただくために展示案内ボランティアによる展示案内、説明を毎日実施しました。展示品のメンテナンスは、日常の職員による点検・保守や不具合の修理、定期保守点検を行い、良好な状態で見学できるよう努めました。

展示の充実を図るため、「港運」のコーナーにおいて生糸を輸出するときの荷姿を当時の梱包材のアンペラ（イグサの一種）で再現しました。

また、横浜に入港するクルーズ客船など展示情報の更新を適宜実施しました。

さらに、28年度から、館長が横浜の港と船などについて解説する「みなと博館長トーク」を実施しました。併せて、学芸員が、毎月1回テーマを決め、常設展示を深く掘り下げて分かりやすく解説する「学芸員のワンポイント展示解説」も実施して常設展示の魅力を伝えました。



生糸梱包 アンペラ(再現)



学芸員のワンポイント展示解説

(2) 特別展示事業

展 覧 会 名	会 期
東日本大震災 第5回 「石巻かほく復興写真展」	6月25日～7月3日
企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」	8月20日～11月6日
企画展「海難と救助—信仰から SOS へ—」	2月18日～4月16日



＜柳原良平展＞
内覧会テープカット



＜柳原良平展＞
会場風景



＜海難と救助展＞
フロアガイド

(3) 教育普及事業

年間を通して小・中学生及び大人を対象とした各種教育普及活動を積極的に行いました。25年度より開始した「船と港の夏休み自由研究」には、約100人の小学生の参加がありました。市内の小学高学年向けには、海と船に親しむ1年間のプログラムである横浜みなとキッズクラブを実施しました。また、入館者向けに毎週土曜日はキッズのためのクイズラリー、6月、2月の日曜日には、大人のためのクイズラリーも実施してリピーター増、入館者増に努めました。そのほか土、日、祝日に教育活動ボランティアの協力で船の折り紙教室、ペーパークラフト教室を開催しました。



横浜みなとキッズクラブ
造船所見学会

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車道側水域において、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、シーカヤック教室を開催しました。リピーター向け中級コースについては、監視艇や船外機の購入、コースの選定、対象者及び講習内容等の検討を行い、29年度の正式発足に向け準備をしました。また、神奈川大学・横浜国立大学、横浜市立大学、放送大学との連携教室を開催しました。(計76回開催、のべ855名参加)

新たな取り組みとして、横浜市カヌー協会・NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、子ども向けカヌーポロ教室を開催しました。(計11回開催、103名参加)

10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたって実施した第5回「帆船日本丸杯カヌーポロ大会」は、協賛各社からの副賞も用意され、11チーム、84名の参加がありました。技術を駆使したスピード感あふれる競技の様子に、会場が大変盛り上がりました。



シーカヤック教室



カヌーポロ大会

(2) パーク利用事業（イベント）

市民交流・リサイクル事業としてのフリーマーケット、吹奏楽演奏会をはじめとする音楽イベントなどを定期的に行いました。

夏のピカチュウイベントやみなとみらい21 さくらフェスタ 2016、ヨコハマ大道芸 2016 などみなとみらい21 地区のイベントに積極的に参加しました。

また、正月には、ボランティアの皆さんとともに日本丸進水 87 周年を参加者と一緒に祝うもちつき大会を実施するなど、年間を通じてパークの有効活用を進め賑わいの創出を図りました。



夏のピカチュウイベント



正月もちつき大会

5 緑地管理及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理



夜間照明灯のLED化



安全・安心な芝生

老朽化により劣化破損した床タイルの補修を順次計画実施し、つまずきなどの危険を排除しました。大岡川沿いプロムナード及びドック周りの腐食手摺は落下の危険があることから総点検を行い、腐食破損部の固定と塗装修繕を行いました。パーク夜間照明灯のLED化には複数年計画で取り組み、全数の交換工事を達成したことで、安定した照度の確保と省エネ効果の向上を図りました。

ワシントンヤシをはじめとする高木の枯れ枝剪定を実施し、落下による事故の危険を排除しました。また、樹木の幹に発生した腐敗を早期に発見、伐採により倒木を防ぎました。

デング熱やジカウイルス感染症等の防止対策として蚊の駆除を実施し、来園者が快適に過ごせる安全・安心な空間を提供しました。

イ 環境管理

パーク内各所に配置したプランターでは年間を通じ季節に適した花の維持に加え、花壇の整備では、さくら通り歩道に横浜市が設置した企業協



ふれあい花壇の整備

賛花壇（みなとみらい21ふれあい花壇）の草花の購入や植え付け、維持管理を行い、グリーンボランティアとともに地域環境の美化改善に貢献しました。また、昆虫が繁殖できるバタフライガーデンやバッタの草原を維持し、ドック内では、海のゆりかごとと言われるアマモの育成に継続して取り組み、自然環境の保全に努めました。

ウ 桜木町駅前広場の清掃

地域と連携した社会貢献事業の一環として、横浜市のハマロード・サポーター制度に登録し、毎月第1水曜日に「桜木町駅前広場活性委員会」と協働し清掃活動を実施しました。（毎回3名参加）

エ 撮影

国指定重要文化財関連の取材を含め、合計122件（前年比150%）ご利用いただきました。主な内容はニュース23件、テレビ番組22件、CM16件、新聞16件などとなります。

利用方法の周知や実績等を公開するなど、Webページでの発信内容を工夫しました。



CM撮影風景

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

ア 利用者ニーズに対応した改善

本施設は駅からのアクセスも良く、利用者から好評を得ています。

かねてからのお客様の声に対応し、28年度は予約の方法を時間帯単位に変更しました。その結果、利用状況を的確に把握できるようになり、時間帯ごとの稼働率や売り上げ状況をリアルタイムで確認できるようになりました。さらに、お客様より利用記録を提出していただくことで満



利用風景

足度等を把握することができました。また、プロジェクターを最新型にしたり、教室前掲示板を新設したり、Web上での予約状況情報の開示を予約できる全期間に拡充したりするなど、様々な改善を行いました。

利用者ニーズに対応し利便性向上に努めた結果、利用料金では前年度比9%の増となりました。

イ 帰宅困難者一時滞在施設の登録

一般社団法人横浜みなとみらい21及びみなとみらい21防災エリマネ推進委員会は、平成28年度に横浜市と連携し、みなとみらい21地区における地震対策の推進事業の一環として「みなとみらい21地区帰宅困難者一時滞在施設登録制度」を創設しました。

日本丸メモリアルパークにおいても、訓練センターを受入施設（収容

人員 115 名) として登録し、当該地区における帰宅困難者受入対策の一助としました。

6 集客増に向けた重点取組

主な取組は、次のとおりです。

(1) 共同事業体を構成している株式会社 JTB コミュニケーションデザイン (以下「JCD」という。) と連携した取組

新たに毎月、月次決算を活用した魅力づくり集客アップ会議を実施し、課題の早期把握とその解決に努め、施設の魅力づくりや収入の確保、支出の抑制など経営改善を図りました。

ア スマートフォンやインターネットでもお客様の声 (アンケート) を集約できるツールを作成し実施しました。

イ JCD の経験や他施設の事例等のアドバイスにより、自動販売機ベンダーとの契約内容の改善、重要文化財を活用した集客事例の検討、新発券機 (券売機) の導入による効率化の検討を進めました。

ウ ショップデータを複数の視点で整理・分析したことで売上の傾向や課題を把握することができました。売上アップに繋げてまいります。

エ JTB グループのリソースを活用して、団体営業販促ツールである JTB オリジナル企画商品「地恵のたび」に参画し、全国から集客を図ります。(実施は平成 29 年度)

オ JTB グループを始めとして、旅行会社へのインセンティブの展開を図りました。

(2) 学校や各団体への取組

ア 鉄道乗入れや圏央道の開通などを踏まえた北関東、東京都内、神奈川県内を中心にした学校や各団体、各旅行業者に対して訪問営業を実施しました。

イ 北海道、東北、関東、首都圏、中部、神奈川県内の小中高に約 4500 件のダイレクトメールを発送しました。

ウ 横浜観光コンベンションビューロー主催の「横浜商談会 in 札幌」に参加し、地元旅行会社等への営業 PR を行いました。

エ 横浜マリノスと連携し作成した、オリジナル帆船ペーパークラフトの教室をさくらフェスタの 4 月 2 日に実施しました。クラブ公式キャラクターのマリノスケにも日本丸に乗船いただき賑わいづくりに一役かっただきました。

また、6 月初旬の 1 週間、横浜マリノス「横浜 city special day」の催し

に参加するとともに、試合当日(6月11日)のイベントにブース出展しました。
オ 横浜市政策局の海洋都市横浜うみ協議会の一員として「海洋都市横浜うみ博2016」(会場:大さん橋ホール 7月22日・23日)に出展、また同博スタンプリアーに参加しました。

カ 横浜市温暖化対策統括本部のみなとみらい2050プロジェクトが、3月25日に実施したみなとみらいライトペインティングに参加しました。

キ 横浜開港祭のはまっこスクール海洋ランドにブース出展しロープワークの体験教室を実施しました。

ク 横浜市交通局主催の「はまりんフェスタ2016」が新羽車両基地で行われ、「帆船パーパークラフト教室」と物販(日本丸チョコロQ等販売)で出展しました。

(3) 春限定親子ペアチケットの発売

27年度に引き続き、春休み等に気軽に、かつお手ごろな料金で来館していただけるような設定で実施しました。

販売期間(平成29年3月1日~4月9日)

(4) インバウンド(訪日外国人客)集客増に向けた取組

訪日外国人観光客獲得への取り組みとして、「多言語ガイドシステム」やHP、Facebook等での情報発信力を高め集客に繋げました。夏に実施した



Japanguide.comへの広告

「Welcome to NIPPON MARU and Yokohama Port Museum キャンペーン」では「japanguide.com」のサイトへ広告の掲載と英語チラシの配布を行い広く広報しました。

お正月や春休み等、外国人観光客が多い時期のチラシも英語版で作成しました。今後シーカヤック等のチラシも英語版を作成予定で、引き続き訪日外国人向けの施策を行っていきます。

(5) 広告

対象を絞った情報誌に記事や広告を掲載し、集客増を図りました。

ア 夏休みの子ども工作など体験型事業を紹介する「かながわサイエンスサマー」に掲載しました。

イ 学校修学旅行誘致用『月刊教育旅行』に掲載しました。

ウ 観光客向けの「横浜ベイシティマップ」へ情報掲載しました。

(6) 広報活動の強化

Webページの更新、公式Facebookやアプリのニュース等SNSでの広報活動を強化しました。

7 組織運営の質的向上に向けた取組

(1) 風通しの良い職場作り

職員一人ひとりが、必要な情報を共有できるよう、毎朝の朝礼での連絡事項の伝達、報告等を行いました。毎週木曜日には管理職業務調整会議を実施し、懸案や課題の解決を図るとともに、職員ミーティングを定例開催しました。

また、施設の委託業務を受託しスタッフを常駐させている警備、設備、清掃事業者と毎月1回委託業務連絡会を開催し、コミュニケーションを深め、施設の安全な維持・管理を図りました。

(2) 各種研修会の実施・参加

財団職員の能力開発・スキルアップや人権啓発、コンプライアンス等を目的に各種の研修会等（延べ53人参加）を実施するとともに、横浜市や他団体が主催する研修会等（延べ23人参加）に参加しました。

運営協力をいただいているボランティアの研修会も開催してスキルアップ等を図りました。（延べ123人参加）

(3) 防災訓練の実施

12月7日（42人参加）と1月27日（24人参加）に西消防署指導のもと、情報伝達、避難誘導、消火器取扱いや煙体験等の、防災訓練を実施し、発災時対応の確認と減災意識の向上に努めました。



12月の防災訓練

また、3月6日に日本丸メモリアルパークが実施会場になった、みなとみらい21地区内の合同防災訓練に4人が参加しました。

(4) コンプライアンス委員会の実施状況

外部委員も交え、常に適正な運営を行うためコンプライアンス委員会を実施しました。

ア 実施日

平成28年12月9日

イ 議題

職員の懲戒処分事案について、その事由と処分案に対する意見聴取

ウ 検討結果

「減給10分の1 1か月」という財団処分案は妥当

(5) アンケート調査（モニタリング）の実施

総合満足度（99.6%）や係員の対応等は高評価を維持・向上しています。リピーターは、昨年度の20%台と比べ、今年度は40%を超えて大幅な増となっています。

「帆船日本丸進水 100 年までの保存・公開」についての賛否では、賛成が 98.3%とその他の「文化遺産として保存すべき」や「港横浜のシンボルとして是非」0.9%を合わせて 99.2%の支持を集めました。



参加型体験については、参加意図が多かったシーカヤック教室 34.3%ですが、参加体験は、0.6%とほとんどありませんでした。事業自体認知度が低いことから、事業内容の工夫や広報・PR活動で認知度向上を図ります。

モニタリングアンケート実施日

11月24日（木）～27日（日） サンプル数 249

(6) 指定管理事業における提案事業の執行管理

第3期指定管理者（平成28年度～平成32年度）応募時に事業計画書により約400の事業を提案しました。昨年度作成した提案事業ごとの実施工程表に基づき、管理職及び関係職員で構成する管理会議で、執行状況の確認及び分析を実施しました。

期	種別	内容	実施態	見込的達成内容	担当	進捗(%)							H28年度達成率・達成額			
						H27	H28	H29	H30	H31	H32					
1	様式 2-1	1-1 指定管理事業としての基本的な考え方	=	■ 指定管理の基本的な考え方、運営方針、経営理念の具現	役員											
				■ 指定管理期間中の目標(平成32年度) 目標管理	総務											
				①10年3月31日までの利用参加150万人	総務	H28年度	120	124	120	142	148	150				
				②有料入場参加87万人	総務	H28年度	73	8	81.5	8.2	8.5	8.7				
				③無料の無料参加890名	総務	H28年度	590	595	610	625	640	650				
1-2 販路の方針	=	■ 2017～2020についての集客方法	企画、総務	H28年度	達成し	未達	達成	達成	達成	達成						
		④指定管理期間97%以上の確保	総務	H28年度	97%	97%	97%	97%	97%	97%						
		⑤指定管理料の確保3%増	総務	H28年度	-	1%減	2%減	2%減	4%減	2%減						
2	様式 2-2	ア 利用客サービスの向上への取組方針	=	■ 利用客サービスの向上を図るための取組方針	総務											
				1 取組目標達成率を向上させること	総務											
				①PCOAサービスのアンケート実施と改善	総務	未達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成				

工程表総括表（指定管理提案書対応）

8 事業一覧表

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開 4月～3月	船内を年間 288 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） ・年末（12月29日から12月31日まで） ・船体整備（1月28日から2月20日まで）
総帆展帆（11回） 延べ 1,023 人のボランティアが参加	4月10日（日）、4月29日（金）、5月15日（日） 5月29日（日）、6月12日（日）、7月18日（月） 8月21日（日）・9月4日（日）、10月10日（月） 11月3日（木）、11月20日（日）
親子展帆	親子展帆 12回実施（参加者 475 人）
満船飾（12回）	4月29日（金）、5月3日（火）、5月4日（水） 5月5日（木）、7月18日（月）、8月11日（木） 10月10日（月）、11月3日（木）、12月23日（金） 1月1日（日）、1月22日（日）、3月20日（月）
海洋教室	半日・1日コース合計3回 参加者 92 人 半日コース：8月6日 28人 1日コース：7月28日 37人、10月8日 27人 宿泊コース合計13回 参加者 909人 4月7日～8日 59人、5月11日～12日 87人、6月4日～5日 20人、6月8日～9日 53人、6月16日～17日 65人、6月23日～24日 70人、7月2日～3日 100人、7月9日～10日 100人、7月14日～15日 55人、10月20日～21日 56人、10月27日～28日 46人、3月4日～5日 99人、3月11日～12日 99人
教育普及事業	実施回数8回、参加者119人 日本丸ガイドツアー 7月23日 5人 日本丸の重さを量ろう！ 7月24日 7人 日本丸でロープを作ろう！ 8月6日 12人 日本丸でロープを作ろう！ 8月20日 2人 夏休み自由研究 8月6～20日 44人 日本丸船長による船の講座II 11月27日 14人 日本丸の未公開ゾーン見学会 1月15日 16人 修繕工事見学会 2月5日 19人
総帆展帆協力者登録数	延べ 2,236 人 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア
帆船日本丸船内ガイド	延べ 48 人 登録ボランティアによる船内ガイドを実施
甲板清掃ボランティア等	189 日の作業日に延べ969 人のボランティアがブラスワーク（真ちゅう磨き）や整備作業を実施。また、ベンディング・アンベンディングに4日間延べ 196 人のボランティアが参加。

【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業 4月～3月	次の日を除く毎日公開 月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） 年 末（12月29日から12月31日まで） 害虫燻蒸期間（1月27日～2月1日）
展示案内4月～3月	展示案内ボランティア（登録ボランティア34人）による常設展示の説明
特別展示事業	<p>1 東日本大震災 第5回 石巻かほく復興写真展 会期 6月25日（土）～7月3日（日） 関連行事 連携講演会「風・波・うねり、そして津波と海難『海難事故に学ぶ』」（講師：飯田敏夫日本丸船長）6月25日（土）6人／語り部さんのミニトーク6月25日（土）・26日（日）・7月2日（土）・3日（日）8回開催 110人</p> <p>2 企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」 会期 8月20日（土）～11月6日（日）12,174人 関連行事 企画展記念座談会「柳原良平の海と船と港の絵を語ろう」9月17日（土）74人／「柳原良平の海・船・港の絵本をつくろう」9月24日（土）、25日（日）9人／企画展フロアガイド9月19日（月・祝）、10月29日（土）、11月6日（日）134人</p> <p>3 企画展「海難と救助—信仰からSOSまで—」 会期 2月18日（土）～4月16日（日）7,129人 ・関連行事 海上保安庁元特殊救難隊長スペシャルトーク 3月18日（土）110人／「横浜海上防災基地見学会」3月28日（火）33人／企画展フロアガイド 2月26日（日）、3月12日（日）、4月16日（日）61人</p>

教育普及事業

教育普及ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施（登録人数 19 人）

1 横浜みなとキッズクラブ

横浜みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動を同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業。延べ 196 人

ワークシートを使った博物館・造船所見学会、工作教室、シーカヤックなどを、7回実施し、活動結果を館内に展示。

また、活動の中で作成した新聞を応募し、（公財）日本海事広報協会ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞（佳作）を受賞。

2 カンタン！船の工作教室 5月3日（祝・火）189人

3 ソーラーで動く船工作教室 7月29日（金）・30日（土）114人

4 ポンポン船工作教室 7月31日（日）68人

5 モーターで動く船工作教室 8月13日（土）61人

6 船と港の夏休み自由研究 8月6日（土）～21日（日）97人

7 親子の海図教室 7月23日（土）123人

8 大人の海図教室 11月19日（土）33人

9 なるほど！ミナト散歩－開港の道コースー
6月18日（土）20人

10 春休み・親子の楽しい船の見学会 3月26日（日）35人

11 キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間）

高校生以下入館無料の土曜日の小・中学生向け事業。展示をよく見て答えるクイズラリーを実施。51回1,559人

12 楽しい船の折り紙教室（こども向け）50回2,268人

13 学芸員のワンポイント解説（新規）

学芸員が常設展示を掘り下げて解説 7回44人

14 みなと博館長トーク（新規）

館長が海・船・港について解説 3回21人

15 サンデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）全50回
2,779人

16 大人のためのクイズラリー（大人向け）5回 297人

17 ホリデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）6回370人

18 ホリデー船の折り紙教室（ファミリー向け）8回746人

<p>調査・研究・収集・出版 活動事業</p>	<p>1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映。また、資料整理のデータベース化を推進。 寄贈 609 点、購入 28 点、採集 64 点</p> <p>2 出版活動 年間行事予定表、企画展に合わせた図録等を出版。</p> <p>3 資料貸出し・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを実施。 資料特別利用：尼崎市総合文化センター、高志の国文学館など 6 件 資料貸出：日本郵船歴史博物館、品川区立品川歴史館など 21 件、112 点、画像などを貸出。</p>
<p>ライブラリー事業</p>	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供。 データベース化の蔵書情報はライブラリー、ホームページで公開。</p> <p>1 公開日・公開時間 博物館と同様</p> <p>2 利用方法（料金等） 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ利用は 1 人 100 円。コピーサービス（有料）のほか、レファレンスサービスを実施。</p> <p>3 収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集（購入 121 冊・寄贈 175 冊）・整理して配架しました。 また、図書のデータベース化（約 23,700 冊）を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持。</p> <p>4 その他 小中学生の体験学習の受け入れのほか、アウトリーチ活動として、周辺区の教育事業や団体・企業の研修への出張講義など館外での活動を実施。</p>

【みなとの賑わい創出事業】	
<p>水辺の事業</p> <p>シーカヤック教室 カヌーポロ教室 カヌーポロ大会</p>	<p>水辺の事業の柱として、水域及び汽船側静水域で、シーカヤック教室、カヌーポロ教室、カヌーポロ大会を開催。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シーカヤック教室の通年開催 76回の開催で855人が参加、利用料金は前年度比 69% 2 子ども向けカヌーポロ教室の開催（新規） 11回の開催で 103 名が参加 3 第5回帆船日本丸杯カヌーポロ大会（関東ポロリーグ神奈川大会）の開催 10月29日(土)～30日(日) 11チーム 84名が参加
<p>パーク利用事業イベント</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 フリーマーケット 12回（雨天・荒天中止 5回） 2 吹奏楽演奏会 13回（実施 10回、雨天中止 3回） 3 ゴールデンウィークイベント（ファミリー向け）音楽、参加体験事業・工作教室 4 ファミリー向けを意識したライブステージ 5 横浜市のプロモーション事業 積極的な誘致と連携した開催 「ピカチュウ大量発生チュウ！～今度はぬれるんだって？？～」「映画遊戯王タイアップキャンペーン」など 6 神奈川県関係イベント「かながわフードコレクション」「かながわミルクフェスティバル」 7 クリスマスイベント、子ども向けワークショップ等 8 冬のクリスマスイルミネーション 9 正月もちつき大会 10 進水記念祭（無料開放）
<p>緑地の維持管理・活用</p>	<p>パーク来場者及び地区来街者向けの景観向上、賑わいの創出。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全国都市緑化よこはまフェア開催に向けた臨海部緑地整備協力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 博物館屋上芝生へのハート形の花植栽 (2) サクラコンテナ・花コンテナの配置 (3) 南北回廊付近にオオカンザクラの植樹 2 「YOKOHAMA Free Wi-Fi」設置協力 市内 4 か所で無料 Wi-Fi サービスを展開する内の 1 か所として日本丸メモリアルパークに整備 3 水陸両用バス「SKY DUCK」運航に伴う協力 <ol style="list-style-type: none"> (1) パーク内及び周辺的安全性対策 (2) 海面斜路、水・電源工事的確な誘導等 4 撮影 利用件数 122 件、前年度比 150% 利用料金前年度比 145%



ハート形植栽

<p>グリーンボランティア</p>	<p>西区第一地区町内連合会の協力を得て、メンバーの追加募集活動を行い、1名が加わり8名の登録。のべ81名参加</p> <p>(1) 活動日（毎月第1・第3土曜日午前中）</p> <p>(2) 主な活動内容（定例）</p> <p>ア パーク花壇／植込みの手入れ</p> <p>イ 横浜みなと博物館 屋上芝生の手入れ</p> <p>ウ 博物館ショップ 「緑のカーテン」づくり</p> <p>(3) その他の活動</p> <p>ア さくら通り「みなとみらい街かど花壇」づくり（新規）</p> <p>イ 「赤レンガフラワーガーデン2016」及び「みなとみらい花ひろば（2050プロジェクト）」イベント終了後の花苗を有効活用した花壇づくり。</p> <p>ウ 全国都市緑化よこはまフェアの開催に合わせたパークの花と緑の充実を目指した活動</p>
<p>研修施設（訓練センター）の管理運営</p>	<p>1 貸出期間 12月29日～1月3日、1月30日を除く全期間</p> <p>2 空き情報等 Web での情報提供（年間234回更新）</p> <p>3 リーフレット日本丸メモリアルパーク「貸教室・会議室案内28年度版」の発行</p> <p>4 年間稼働率（新規） 第1・第2教室62.8%、第3教室58.4%、小会議室50.4%</p> <p>5 利用料金前年度比109%</p>
<p>【集客増に向けた重点取組】</p>	
<p>団体への取組</p>	<p>1 タイムリーな情報発信・訪問営業の継続</p> <p>(1) 横浜市内、神奈川県内の学校遠足・学校行事等誘致</p> <p>(2) 首都圏小・中・高等学校遠足、社会見学の誘致</p> <p>(3) 全国からの修学旅行誘致のための情報発信の継続 月刊「修学旅行」への継続的な広告掲載</p> <p>(4) 横浜観光コンベンションビューローの教育旅行誘致事業と連携した活動「横浜商談会 in 札幌」参加者19社48人</p> <p>(5) 新幹線開通を考慮した営業</p> <p>(6) 北関東等を中心とした学校・団体への営業等</p> <p>2 来館誘致資料</p> <p>(1) 関東近県や首都圏を修学旅行候補地としている北海道、東北、中部などの小・中学校（一部高等学校）に来館誘致のダイレクトメール発送（4,534件）</p> <p>(2) 配布資料は地域や学校種（小・中・高・特別支援学校）それぞれの特性に応じて内容を工夫</p> <p>(3) 営業用資料を別途作成し、いつでも携行できるよう準備し活用（旅行社・学校・教育委員会向け）</p> <p>3 Webでの情報提供と下見</p> <p>(1) 団体向け、学校向けWebページ等を常時更新（224回）</p> <p>(2) 横浜市のふれあいコンサート向けWebページ開設</p> <p>(3) 下見の重視と配布資料の改善 下見件数計275回、学校241件、一般34件</p>

	<p>4 料金施策</p> <p>(1) 高校生料金の改訂（小中学生と同一料金帯）（新規） 高等学校数 112 校（前年度比 128%）</p> <p>(2) 単館券の通年販売（新規）</p> <p>5 旅行会社向け取組</p> <p>(1) 旅行会社向け特別原価の提供（通年施策）</p> <p>(2) 旅行会社（JTB 等）、鉄道各社旅行部門（JR 東日本等）へ定期的に情報発信し、個人・団体観光客への情報提供及び集客チャネルとして連携強化</p> <p>6 訪日観光客誘致の取組と多言語ガイドシステムのPR</p> <p>横浜観光コンベンションビューローと連携し、海外で開催される観光展などで海外メディアへの情報提供</p>
<p>横浜市・近隣施設等との連携</p>	<p>1 施設の認知度の向上による来館促進</p> <p>(1) 西区を始めとした地域の市民活動支援センターの利用団体、子育て支援拠点、老人クラブなどへの施設情報・イベント情報の提供</p> <p>(2) 各区のイベントと連携</p> <p>2 観光客（宿泊客）の来館を促進</p> <p>(1) 近隣ホテルの宿泊者向け割引チラシの配布</p> <p>(2) 宿泊プランの企画提案</p> <p>(3) 当館の情報提供</p> <p>3 イベントや展覧会等の共同実施及び告知 （近隣施設連携による相互来館促進）</p> <p>(1) 海も山もよくばりスタンプラリー（野毛山動物園）</p> <div data-bbox="679 1189 1177 1565" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">海も山もよくばりスタンプラリー相互展示</p> <p>(2) 横浜乗りものフェスティバル 原鉄道模型博物館・日産グローバル本社ギャラリー、三菱みなとみらい技術館・日本郵船歴史博物館</p> <p>(3) みなと春 MARCH キャンペーンに参加、イベント情報を広報</p>

(4) 海と山と丘の公園交流

日本丸メモリアルパーク（横浜市）、神奈川県立相模原公園（相模原市）、国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市・長野県大町市）の3公園交流

ア 相模原公園&日本丸メモリアルパーク&あづみの公園共同写真展（7月～11月）



相模原公園写真コンテストのテーマ、サンパチェンスの花壇を日本丸メモリアルパークにて展示

イ 相模の大帆ミニチュア展示（1月）



横浜みなと博物館1階フリーゾーンに相模の大帆ミニチュアを展示

【組織運営の質的向上に向けた取組】

各種研修会の実施及び参加

主催部分の財：財団、他：市又は団体

職 員			
月 日	研 修 名	参加者数	主催
4月1日	新採用研修	2人	財
6月16日	第2回県博物館協会研修	1人	他
6月29日	消費者力向上カレッジ「契約の知識を身につけて伝えよう！」	1人	他
7月1日	コンプライアンス指導者研修	1人	他
7月5日	市民の期待に前向きに取り組むコンプライアンス研修	1人	他
7月28日	平成28年度新任廃棄物管理責任者講習会	1人	他
8月1日	新採用研修	1人	財
9月9日	横浜市外郭団体「情報セキュリティ研修」	1人	他
10月1日	新採用研修	1人	財
10月18日	サイバー犯罪防止シンポジウム	1人	他
10月25日	財産運用講習会	1人	他
11月14日	横浜市指定管理者による事例発表会	1人	他
11月16日 11月17日	クレーン研修（つり上げ荷重5t未満、移動式クレーンを除く）	1人	他
11月24日 11月25日 11月26日	玉掛け技能講習	1人	他
11月30日	みなとの博物館ネットワークフォーラムスキルアップ交流会研修	3人	他
12月1日	みなとの博物館ネットワークフォーラムスキルアップ交流会研修	1人	他
12月12日 12月13日 12月14日	玉掛け技能講習	1人	他
1月16日 1月17日	クレーン研修（つり上げ荷重5t未満、移動式クレーンを除く）	1人	他
1月30日	クレーン及び玉掛け内部研修（指導員職員）	8人	財
2月27日	人権啓発研修	2人	他
3月2日	人権啓発研修	2人	他
3月15日 3月22日 3月24日	職員研修（コンプライアンス・人権・個人情報・経理・文書）	41人	財
3月16日	日本フローティングシップ協会研修会	2人	他

ボランティア			
月 日	研 修 名	参加者数	主催
4月2日 4月3日	春期新規展帆ボランティア養成訓練	5人	財
4月3日	展帆ボランティアリフレッシュ訓練	9人	財
4月6日	ボランティア館外研修「船でめぐる吉田新田」	36人	財
10月15日 10月16日 10月22日	秋期新規展帆ボランティア養成訓練	9人	財
11月1日	博物館ボランティア館外研修「アンクル船長の絵と酒を訪ねて」	23人	財
1月31日	展示案内ボランティアリフレッシュ研修	21人	財
2月1日	展示案内ボランティアリフレッシュ研修	9人	財
2月2日	教育活動ボランティアリフレッシュ研修	6人	財
3月26日	平成29年度教育活動ボランティア研修	5人	財